

# 紀南教会瓦版

発行元  
紀南教会  
紀南教会瓦版  
和歌山県田辺市  
下屋敷町80  
TEL/FAX  
0739-25-1191  
050-3391-6533

三ヶ月のご無沙汰です。お元気でいらっしゃいましたでしょうか。緑の季節になりました。慌ただしく春が過ぎて行ったような気がします。

新年度が始まって二ヶ月が過ぎましたが、それぞれの生活に慣れてきましたでしょうか？食中毒が発生しやすい梅雨を控えていますので、ご用心下さい。二二号の発行が出来ます事を感謝しつつ。編集委員一同



## 遅刻

我が家が  
ら二二・三  
K程離れた  
病院に長く  
通院してい  
ます。月の  
半分から三  
分の一ほど  
です。時々  
病院に行く  
のが億劫に  
なり、ヤレ  
ヤレと思う  
日がありま  
す。朝パタ  
パタするの  
が苦手な私  
は予約時間  
を遅くしてもらっている。

この日は消化器内科の受診日だった。一時一五分予約。良いお天気だったので時間まで花に水やりをしたりメダカに餌を与えたり、とコソコソと動いていた。決して予約時間を忘れていたのではないが、とてモノンビリした気分だった。時計を見たら一〇時五〇分「さあ、コーヒーでも飲みましょ」と、カップに

コーヒを注いでいた時、アアッ！一〇時五〇分！我に返った。のんびりコーヒを飲んでる時間ではない。服を着替えようとして、も左腕が自由に動かせないので袖が絡んで抜けない、パンツを着替えようとして、も足の自由も十分ではないので絡みつく。なんて不自由な！とこの時思った。靴を履こうとしても上手く足が入らず靴が転げる「エエ！全く！自分が悪いのに、腹が立つ。それからの一〇分は一分位の早さだった。車に乗って病院へ。「落ちて着け・落ちて着け」と自分に言い聞かせながら走らせた。しかしこんな時に限って、交差点の手前で信号が黄色になる。一、二、三ある信号が殆ど手前で黄色だった。イラッとするが、「これは神様からの警告だ。これで良いのだ」と言い聞かす。さらに前を走っている車が這っているような速さで走る。もう、何なのよ。この走り方！と思う。さらに途中で道が混んでいて

苛つきながらもトトロ口走り。反対車線にバトカーが走ってきた、運転しているお巡りさん目があった。全く違反はしていないのに、思わず愛想笑いをし会釈をしてみました。心を見透かされているような気分だった。

やっと病院に着いたのに、駐車場は満車。職員の駐車場で止めた。ここから受付までは遠い。早足で歩けないので気がせく。やっと思いで受付迄きた時、看護師さんが「どうしたの？心配したよ。先生も心配して、どうしたんかなあ、昨日は元氣そうに廊下を歩いていたのに、何時も早く来て待っててくれたのに、何かあったのかなあ」と言っていて、診察室を出たり入ったりしていたよ、「ゴメン！滅茶苦茶ごめん！本当に申し訳ない」「何もなかったらそれで良いのよ」と言っていて下さったが血圧がグンと上がった。声を聞いて先生が診察室から出てこられた。「先生、誠に申し訳

ありません。忘れていた訳ではないのですが時間の感覚が無くなってました。もう、滅茶苦茶すみません。アホ・アホです」と弁解をダラダラ。「何事もなかったのなら、それでいいよ」と何時ものニコニコ顔で言っただけだった。

思った。電話で一言「遅れます」と伝えておけば、先生にも看護師さんにも心配をかけなかったし、お巡りさんに愛想笑いや会釈もしなくてすんだのだ。私も息せき切ってイライラせず、すんだのに。家に帰ってからは、疲れ果ててグツグツタリした。

聖歌二二九番：驚くばかりの恵み(アメーzingグ・グレイス)を 作詞したジョン・ニユートンは一七二五年、イギリスに生まれた。母親は幼いジョンに聖書を読んで聞かせるなど敬虔なクリスチャンだったが、ジョンが七歳の時に亡くなった。成長したジョンは、商船の指揮官であった父に付いて船乗りとなったが、さまざまな船を渡り歩くうちに黒人奴隷を輸送するいわゆる「奴隷貿易」に手を染めるようになった。

当時奴隷として拉致された黒人への扱いは家畜以下であり、輸送に用いられる船内の衛生環境は劣悪であり、

赤くて可愛らしいトマト！ピタミン豊富なトマト！しかし私は嫌いです。食べられませんが、少しでも食べると一日中調子が悪くなります。これは深い訳があります。私に未だ一、二歳の頃の話です。近所の方にトマトの絞り汁を飲ませたら体に

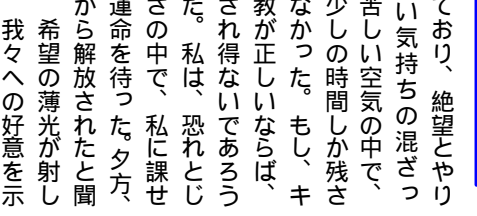
良いと教えられて、人肌に温めた絞り汁を私に飲ませたら身震いをして嫌がり最後には泣いたそうです。日を改めて二回試みたそうです。三度目に、今度は胃の内容物を全部戻してしまっただけのこと。それ以来、赤くてトマトに似たものを見ると、泣きながら逃げたという。この話は何回も聞かされた。なのに、先日そのことを言ったら「何を言っている、お母さんそんなことしないよ。何かの聞き間違いや」と白眼視された。逆転そんな馬鹿な話があるのか。あの時、二回で止めてくれていたら、ここまでトマト嫌いになっただけではないか

つたと思うのですが・・・他の人が美味しそうにトマトを食べているのを見ると羨ましい。それでも私は食べられない。私がトマト嫌いになったのはお母さん！あなたが原因よ。ちなみに母は、現在九九歳八ヶ月です。

つた。このため多くの者が輸送先に到着する前に感染症や脱水症状、栄養失調などの原因で死亡したといわれる。ジョンもまた、このような扱いを、拉致してきた黒人に対して当然のように行っていたが、一七四八年五月一日、彼が二歳の時に転機はやってきた。船長として任された船が嵐に遭い、非常に危険な状態に陥ったのである。今にも海に吞まれそうな船の中で、彼は必死に神に祈った。敬虔なクリスチャンの母を持ちながら、彼が心の底から神に祈ったのは、この時が初めてだったという。彼は後に、その時のことを次のように述懐している。その晩、私は、いつものように、何事もなく無事に、床に就いたが、船に乗っている私たちを襲った猛烈な海水の力によって熟睡から覚まされた。非常に大量の海水が流れ込んできて、キャビン一杯になり、私は、水の中に寝ていた。あらゆる状況から、乗船していた私たちのうちの一人でも、助かるという事は、驚異的な奇跡としか思えなかった。

私は今、死を恐れるが、私が、長いこと逆らってきた聖書が、もし本当に真理であったら、最悪のことが起きるだろう。しかし、私は、未だに信じることをた

めらっており、絶望とやりきれない気持ちの混ざった、重苦しい空気の中で、ほんの少しの時間しか残されていなかった。もし、キリスト教が正しいならば、私は赦され得ないであろうと思った。私は、恐れとじれつたさの中で、私に課せられた運命を待った。夕方、船が水から解放されたとき聞いた時、希望の薄光が射し込んだ。我々への好意を示す神の御手を見たと思っ



救しを与え給うた神の驚くばかりの恵みに対する深い感謝が込められている。後に、この歌がアメリカの黒人奴隷の魂の歌となり、どれほど彼らを慰め、生きる希望を与えたか計り知れない。

私事ですが、小学校の頃から作文は苦手でした。今でもそうです。何行も野線の引かれた通常の便箋に向かうと筆が進みません。でも短冊のような一筆箋に書き始めると何枚にもなりこれなら初めからもつと大きな便箋に書けば良かったかと思うのです。本当に自分の事ながら不思議です。次号二十三号は八月三十日発行予定です。



## アメーzingグ・グレイス

紀南教会牧師 上山耕司